# 銅・アルミ市況見通し

## 12月

## 橋本アルミ取締役
## 橋本 健一郎氏レポート

### 銅

10月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で12・5％減の5万5580㌧で、22カ月連続のマイナス。14品目中5品目が前年同月実績を上回った。5品目のプラスは、1月以来。伸銅品の低調は、そろそろ底を脱してきている様子。

10月の銅電線出荷量は同3％増の5万5200㌧で、うち国内が同3％増、輸出が同3・4％増だった。

銅輸出は、電気銅が同13・3％減の4万8927㌧、銅スクラップが同25・9％増の3万2007㌧。

銅輸入は、電気銅が同20・9％増の857㌧、銅スクラップが同63・4％減の7949㌧だった。

### 銅スクラップ景況予想

11月の電気銅建値は月初の127万円が月末には130万円になるなど上昇傾向だった。流通（一次問屋）における11月の在庫は、伸銅品の生産減・発生減により品薄となった。需要面は自動車の生産販売の回復から一定の需要は見込めるが、民生用途は中国を中心に需要の回復が遅れている。一方、中国への輸出は増えており国内需給は引き締まっている。

| 12月銅市況予想レンジ | | |
|---|---|---|
| LME銅セツルメント | 8000～8500ドル | 横ばい |
| 電気銅建値 | 120～132万円 | 横ばい |
| 為替（1ドル） | 145～150円（1カ月間TTM） | レンジ内 |

### LME銅・為替予想

今月は「米・FRB（連邦準備制度理事会）の金融政策」「中国の景気対策」に左右される。

米・FRBの金融政策では、FRBの利上げ局面は終了したとの観測が強まっている。インフレ鈍化を映す統計が目立つほか、11月末のパウエルFRB議長の発言は市場の想定ほど金融引き締めに積極的な内容ではなかった。このことから、むしろ来年は利下げ期待が台頭すると見ている。

中国の景気対策では、経営再建中の中国不動産大手、中国恒大集団に対する清算申し立ての審理を開き、判断を来年1月29日に延期した。恒大が示した新たな債務再編案についての検討や協議に時間を要するため、年内は持ちこたえると見ている。

### アルミ

10月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同1・8％減の15万1570㌧で19カ月連続のマイナスだった。

生産量は板類が同2・4％減の9万3799㌧、押出類が同0・9％減の5万7771㌧だった。

10月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同3・3％増の6万8113㌧（2カ月ぶりのプラス）。出荷は同2・3％増の6万8166㌧（2カ月ぶりのプラス）だった。

輸出はアルミ新地金が同307％減の414㌧、アルミ二次合金が同57・1％減の671㌧、アルミスクラップが同13・2％増の3万8580㌧、アルミ缶が同26・5％減の5202㌧。

輸入はアルミ新地金が同15・5％減の8万6648㌧、アルミ二次合金が21・3％増の10万8042㌧、アルミスクラップが同25・3％減の610㌧、アルミ合金スクラップが同14・4％増の6353㌧だった。

| 12月アルミ市況予想レンジ | | |
|---|---|---|
| LMEアルミ現物後場買い | 2100～2200ドル（現物後場買い） | 弱い |
| スクラップ | プラス5～10円（前月最終価格より） | 強い |

### アルミスクラップ景況予想

LME価格は前月に引き続き2200ドル近辺となりレンジ内で推移した。流通（一次問屋）の在庫は、二酸化炭素削減に向けたリサイクル原料特需による中国筋の高値買いにより、少ない状況。需要面は、先月と同様に日本の自動車の生産販売が堅調なこと、円安で輸入物が高くなっていることから、需要が出てきた。LME価格の上昇による、中国筋の高買も見られる。